

会 議 録	
会 議 名	令和 6 年度第 3 回真庭市子ども・子育て会議
日 時	令和 6 年 1 1 月 2 2 日（金） 1 9 : 0 0 ~ 2 0 : 3 0
場 所	真庭市役所 本庁舎 3 階会議室
出 席 者	<出席委員> 1 2 名 小畑委員、杉本委員、柿本委員、清水委員、庄司委員、 谷口委員、小谷委員、難波委員、坂本委員、樋口委員、 大塚委員、二若委員 <欠席委員> 3 名 道満委員、鈴木委員、苦田委員 <事務局> 5 名 健康福祉部子育て支援課 吉原課長 健康福祉部子育て支援課 広岡こどもはぐくみ担当課長 健康福祉部子育て支援課 神庭こども家庭センター長 健康福祉部子育て支援課 二宗係長 健康福祉部子育て支援課 水島上級主事 <オブザーバー> 1 名 教育委員会学校教育課 妹尾主査 <委託業者> 2 名 株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング(PMC) 茂木 武、伊藤夏樹
傍 聴 者 数	<傍聴者> 1 名

次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 議 題 (1) 真庭市こども計画（素案）について 4 そ の 他 5 閉 会
------------	---

1 開 会

（事務局 広岡課長）

皆様、こんばんは。委員の皆様方におかれましては、ご多忙のところ、また遅い時間にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日 15 名の委員のうち、3 名の委員より欠席のご連絡をいただいております。従いまして、12 名の方が出席され、過半数以上の出席がありますので、真庭市子ども・子育て会議条例第 5 条第 2 項の規定により、会議が成立しておりますことを、ご報告いたします。オブザーバーとして、教育委員会学校教育課 妹尾主査、また、計画策定業務を委託しております株式会社パブリック・マネジメント・コンサルタントの茂木様、伊藤様が同席しておりますので、ご承知おきください。

それでは、ただ今から、令和 6 年度第 3 回真庭市子ども・子育て会議を開会いたします。はじめに、小畑会長からご挨拶を頂戴したいと存じます

2 挨 拶

（小畑会長）

今日は第 3 回目の真庭市こども・子育て会議ということで、内容について、一つ一つご意見を伺って進めて参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それは（1）真庭市こども計画の素案についてということで、よろしくお願いいたします。

3 議 題

（1）真庭市こども計画（素案）について

～（事務局 二宗係長） 資料説明【第 1 章】～

～（PMC 伊藤氏） 資料説明【第 2 章、第 3 章】～

(小畑会長)

ありがとうございました。説明についてご意見はありますか。感想でも良いです。

(大塚委員)

「こどもの貧困」の定義はどういうものなのか。「ワーク・ライフ・バランス」の捉え方について。「ワーク・ライフ」を計画案では育児休業、特に父親の育休の問題に焦点を当てている。「ライフ」についてはイコール子育てではなく、夫婦の時間、個人の趣味の時間、地域のコミュニティの時間、そこまで広げるのはどうかというのはあるが、親は仕事と子育てさえしていればよいという印象を受けました。施策にどう具体化できるかという問題もあると思う。こども計画における「ワーク・ライフ・バランス」はどう定義するのか。

(小畑会長)

ありがとうございます。貧困とこども計画におけるワーク・ライフ・バランスの位置づけについていかがですか。

(PMC 伊藤氏)

貧困について、可処分所得を上から順番に並べて真ん中で切り、その半分の下4分の1が貧困の定義になっています。こどもの場合は当然親の所得が関係してきます。ひとり親世帯は世帯の所得で見ます。

(事務局・広岡課長)

「ワーク・ライフ・バランス」について、第5章で今後の取組について記述しています。一つには仕事の面と子育ての両立、個人、夫婦としてどういった環境で子育てをしながら生活をすれば、求める生活が出来るかということについて取り組む必要があります。若者が将来像をどう描けるか。人口減少も踏まえ第5章で記述したいと考えています。

(大塚委員)

「こどもまんなか社会」というワードが気になります。計画の1ページに「『こどもまんなか社会』の実現を目的として子ども家庭庁が発足。同時に、すべてのこどもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し・・・」とあるほか、「身体的、精神的、社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会を目指す」と記述がある。大人になっても幸福な生活が続くということは、今の大人もウェルビーイングでないといけないと思う。そこは大事な視点だと思っていて、ワーク・ライフ・バランスのライフを豊かにとらえる精神がこの計画の中で大事なのではと思う。

(小畑会長)

仰る通りだと思います。その他はいかがでしょうか。

(坂本委員)

岡山県のプラン名に(呼称)とつけることやこども大綱の件など一部修正を会議終了後にご担当にお伝えします。

～(事務局 二宗係長) 資料説明【第4章】～

(小畑会長)

ありがとうございます。この内容に関して意見はありますか。特に目標値に対していかがでしょうか。

(小谷委員)

65ページにあります自己肯定感について。若者が自分のことが好きと思うかが疑問です。自分のことが嫌な時期はあると思う。根本的な話になりますが、自分のことを好きをどのようにあげるのか。自分のことが嫌になるのは普通ではないかと思います。

(小畑会長)

こどもの時に自己肯定感が高く、大人になるにつれて低くなっていくのは通常の成長と思います。目標値に上げるためにどう取り組んでいくか。自己肯定感を高めるようなアイデアはありますか。

(事務局・広岡課長)

昨年、こども家庭庁のアンケートで自己肯定感を分析した結果、ドイツ・フランスなど海外に比べ日本は低い状況があり、国民性やまじめなところが出ていると思います。自己肯定感は生まれ育った環境、小さい頃の成長過程、経験、成長段階で関係性が出てきます。個人の性格、もともとネガティブ、ストレスの感じやすさもあるが、生まれ育つ環境や成功体験などで小さなことでも褒められる経験、地域への愛着、地域の中での成長と環境など、長い目で見て小さいところから取り組んでいく必要があります。具体的に自己肯定感をあげていくというのは難しいと思う面はあります。

(小谷委員)

我慢や修行なども方法の一つだと思う。先日インドに行き孤児の施設を回りました。両親もいない、お金もないが、とても幸せでよく勉強もする。頑張ってきたんだと思う。自身でも過去に叩かれた経験は活かされていることもある。当時すごく嫌だったことも、今では我慢できたり、よかったなと思えることもある。どちらも大事だと思う。若者に

とって自己肯定感が本当に必要なのか、大事なのかと思います。

（小畑会長）

他の委員の方も同じように感じてらっしゃる方もおられるのではと思いますが、いかがですか。

（大塚委員）

死ぬほど悩んで立ち直ったからこそ見えるものはある。自己肯定の反対は自己否定。自己否定は引きこもり・自殺につながる。自己肯定が必要というよりか、自己否定をしすぎないことが必要だと思う。

（小畑会長）

そのために必要な施策、市としてどうすればよいと思いますか。

（大塚委員）

周りがプレッシャーを与えすぎないように、周囲の人間の意識を変えていく、こどもを認めてあげることが必要では。社会関係資本という言葉がある。それは人間関係、プラスの意味でひとりがどれだけ人間関係をもっているか。逆に社会関係負債という考えもあって、人間関係が負債に感じる人がそこから逃げ出したい、真庭から出たい、家から出たい、人生を辞めたい、社会関係負債をどう減らしていくかが特に田舎では必要ではと思います。

（小畑会長）

大事な視点だと思います。こどもの自己評価は個人の問題より、環境や家族関係周りから築きあげられるものですので、周囲のあらゆる関係性、雰囲気、こどものポジティブな意識は必要で大事なことだと思います。続いて第5章について説明をお願いします。

～（事務局 二宗係長） 資料説明【第5章 施策の柱1】～

（小畑会長）

こども・若者の社会参画の促進と意見反映、権利が尊重されるようにということ。施策の方向性に関して内容はいかがでしょうか。

（大塚委員）

先ほどの話との関係性は深いと考えます。あらゆるコミュニティでこども・若者の心理的安全性が保たれていること。こども・若者が意見を言っていないかどうか分からない状況というのがよくないと思います。

(小畑会長)

方向性(1)の概要の2行目について、意見を出しやすい環境整備に心理的環境も含まれると思いますが、あえて言葉を出した方が良いのではというご意見に関していかがですか。

(事務局・広岡課長)

即答はできないので、どういう表現にするかは検討します。

(小畑会長)

わかりました。内容に関してはよろしいでしょうか。

(杉本副会長)

ここにある地域ぐるみの子育ての推進はすごく大事だと思います。地域の人が温かい目でこどもを育てる、言葉で言うのは簡単だが、昔は近所の人が怒ったり地域で育てていたが、今は全くない。いじめなどや不登校も問題になっている。地域ぐるみの子育て支援についてもっと強められないでしょうか。地域のコミュニティを推進し、みんなで目をかけて手をかけて育てる。今の私たちのもつ資源について具体的に盛り込んでもらうことが必要だと思います。

(小畑会長)

ありがとうございます。施策の柱2の(3)についてのご意見ですので施策の柱2について説明をおねがいします。

～(事務局 二宗係長) 資料説明【第5章 施策の柱2】～

(小畑会長)

大事なポイントだと思います。ご意見いかがでしょうか。

(清水委員)

地域ぐるみがどういったものか。近所の人がいざいざということは今はない。子育てする側として近所の方が声をかけてくれるのが小学生の登下校の際に、良くも悪くも見守りになっている。自分のことを気にかけてくれることは自己肯定感や自己効力感を高めることに役立つと思う。声をかけてくれて、ほめてもらえた経験はこどもの時にうれしかった。古き良き時代ではないですが、あの頃は地域と近く、ゆるく地域とつながっていた。現代はこどもに声をかけずらいもので、場合によっては事案発生になる。ご年配の方から普段から挨拶をしてもらう。いつも同じ場所で「おはよう」と言ってくれるお

ばちゃんとか。そういったことを施策としてするのであれば、いろんなコミュニティが市に協力し、生涯学習の点、小学生、中学生を見かけたら「おはよう」と言ってあげてください等挨拶を推進する活動を促せるのではと思いました。地域とゆるくつながることが、子育てをしている立場からはうれしいと思います。

(小畑会長)

非常に良いご意見で、特別なことを市がすることも大事な一方、日頃のつながりこそが今の子育て支援をする代わりになるというご意見だと思います。挨拶から始めるのは入り口として大事かと思います。

(谷口委員)

児童養護施設での話ですが、同じ境遇の人と友達になると学校に行けるようになる。心が豊かになりみんなで協力する。こどもの心の成長は親の愛情をためて大きくなるというが、それは親が真剣にこどもに向き合って、善悪を教えたり、困ったことは最終的に親に相談するという信頼関係を築く事が大事。第三者が他の家庭に意見をいう時代でない。子育ての本質は今も昔も変わらない。学力も大事ですが、こどもは喜怒哀楽の感情で成長していく。過去のつらい経験も自分で解消して、自立に向け動いていく。相談する人ができて、自分で就職先を選んで、自立していく。地域の目の見守りは、踏み込まないプライバシーとの境界線は大事。声掛けをお年寄り、こどもに関わらず孤独にならないようにするとか。施策とするのは難しいと思う。こうやればこうなるというものではない。親が幸せ、こどもが幸せであってという流れがあって、そのこどもが親になったときにそのこどもが幸せになるように循環する流れをどこかでスタートして、20年かかるかもしれませんが、そういう方向性それぞれでしていけないといけないと思います。

(小畑会長)

とても大事な話で、仰る通りだと思います。施策はどうしても目標、数値を立てないといけないが人間はそうもいかない。本来は長い目で見るとべきものであるということだと思います。一方で小学校では「知らない人には挨拶しない」という教育もあれば、挨拶しなさいという教育もあり、矛盾した教育があるのも事実。時々の状況をみながらやっていくしかないと感じています。

～(事務局 二宗係長) 資料説明【第5章 施策の柱3】～

(小畑会長)

質問がないようですので施策の柱4の説明をお願いします。

～(事務局 二宗係長) 資料説明【第5章 施策の柱4】～

(小畑会長)

虐待防止や、障害のあるこども、今後増えていくであろうヤングケアラー等についてですが、いかがでしょうか。

(柿本委員)

虐待について、お子様を預かる中で園でも気をつけており、何かあった場合には必要な機関との連携を早期に持つようにしています。在留外国人家庭の支援というのもあり、外国人の園児は増えている状況。言葉の壁は高く、どうコミュニケーションをとるか。低年齢だとボディランゲージも難しい。そのあたりの支援が必要。親御さんも頼るところがないこともあり、しっかり家庭に入るのも必要だと感じています

(小畑会長)

幼稚園、保育所に入った時の視点が必要とご意見いただきました。

～(事務局 二宗係長) 資料説明【第5章 施策の柱5】～

(小畑会長)

ワーク・ライフ・バランスとこどもを産み育てるための環境づくりの推進ということについて施策の柱5つ目に関していかがでしょうか。

(難波委員)

施策の目標を実現するため、周知や啓発の方法が大事で、紙だけではなく、地域の人ひとりひとりに浸透することが意識の向上につながる。そのためにどうしたらよいかを考えるべき。いろんな施策ある中、真庭市として何を重点的にするのか、国の基準と照らし合わせ、キャッチーなスローガンやキャラクターがあると伝わりやすいのかなと思います。丁寧にやりすぎない、お膳立てしすぎない、お膳立てをしないと動けないような人になるのではなく、自分たちで考えたり行動したりするべき勇気を残した余白を残した取組をするのが必要ではと思ったりします。

(小畑会長)

施策について教育的視点でご意見をいただきました。全てまんべんなくということも大事だが真庭市の特徴を出すことが大事ではということです。周知について、今後の予定はいかがですか。

(事務局 広岡課長)

計画を作った後、市民の方にどのように周知をして市が推進していくことを知っていた

だか。市だけではできないことも多く、地域の方、企業、団体の方々と一緒に取組を
していきたいと思っています。重点施策についてもぜひご検討いただければありがたい
なという風に思っています。

（小畑会長）

重点施策、真庭の特徴についてですね。そのほかいかがですか。

（大塚委員）

施策の方向性 2 のところの「関連する計画」というもののの中に、まちづくり推進課が関
連する計画が上がってくるべきなのではないかと思っています。

（事務局・二宗係長）

関連する計画については施策の内容の部分とあわせて関係課と調整をしております。

（小畑会長）

これらは後半に完成ということです。そのほかいかがでしょうか。

（二若委員）

0 歳で預けたい人はたくさんいて、増えていると思っています。0 歳児を預けれる園を
もっと増やしてほしいと思います。

（小畑会長）

次の説明のところで触れさせていただける内容かと思っています。この件そのほかいかがで
しょうか。

（庄司委員）

いったい「こどもまんなか」って何だろうとずっと思っています。国をあげてこどもに
とってのこどもまんなかになっているのか疑問でして。私たちはできるだけ隣で寄り添
っていたいという思いがあり、昔のような隣のおばちゃんに、ちょっと聞ける環境が一
番良いのかなと思っています。サポートあいを立ち上げの時からずっとそういう思いで
やってきているので、来てくださった方には話を聞かれたら話します。親御さんも「こ
どもまんなか」になっているのかというのがあり、真庭市は本当に「こどもまんなか」
であってほしいと思っています。

（小畑会長）

本当の意味の「こどもまんなか」。そこを考えると次に進めないということもあり、今
までがあるのではと思います。そういう疑問を思いながら関わるのが大事なのではと感

じました。次は最後施策の第6章・7章についてお願いします。

～（事務局 二宗係長） 資料説明【第6章 第7章】～

（小畑会長）

ありがとうございました。気になる点がありますか。

質問ないようですので、以上です。議題についてこの会議では了承ということよろしいでしょうか。

【一同、ご承認】

（小畑会長）

事務局に返します。

4 閉 会

（事務局・広岡課長）

本日は限られた時間の中で多くの貴重なご意見ありがとうございました。今後、計画素案を庁内開催の推進本部会議にかけ、12月の文教厚生常任委員会にあげていく予定です。また、市民の方へのパブリックコメントは1月から2月にかけて実施し、その結果を次の会議に上げさせていただきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。それでは閉会のご挨拶を副会長お願いいたします。

（杉本副会長）

長時間に渡りありがとうございます。計画作成について大変だったんだろうと思います。皆さんが真庭市のこどものことを思っていることがわかる内容です。真庭市としての特徴を出すのは今後の課題なのではと思います。次回も良い意見をもらって「こどもまんなかまにわ」になればと思います。